

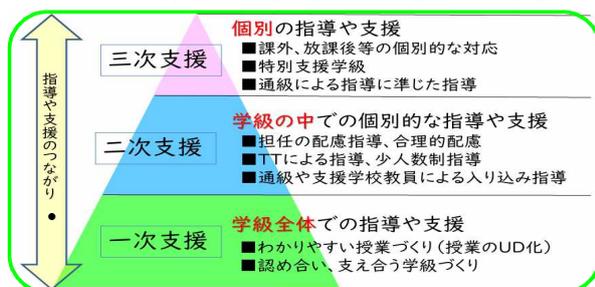
# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 「新年度、何から始める?」

### 1 二次支援が必要な子どもの気付き (支援は周りの気付きと本人の自覚・納得がスタート)



- ・ 昨年度から支援継続の子どもの他に、新入生や転入生を中心に、二次支援が必要と思われる子どもの早期発見を行う。
- ・ コーディネーターや担任による様子観察、園や小学校からの引継ぎ資料、保護者からの情報を基に実態把握を行い、校(園)内委員会 で情報を整理し、全職員で共通理解を図る。

### 2 特別支援教育に係る年間計画の作成 (生徒指導や進路指導等の計画とも関連付ける)

バスは目的地に向かって出発!

燃料～ 本人・保護者・担任等の願い  
ナビゲーション～ 各種計画  
エンジン～ 校内委員会  
運転手～ 学級担任  
添乗員・整備士～ コーディネーター

- ・ 3月のゴールに向かって走るため、4月初めに作成し、職員会議で確認する。
- ・ 記載する内容としては、①校内委員会や保護者面談の開催時期、②個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成スケジュール、③校(園)内研修会の計画、④関係機関名・担当者名、⑤就学・進学等に関する相談会や連携協議会の日程、⑥支援員との打合せ日等である。

### 3 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用 (活用することが目的!)

- ・ 2つの計画の作成対象は、①特別支援学級に在籍する子ども、②通級による指導を受ける子ども、③通常の学級に在籍し、特別な教育的支援(合理的配慮を含む)が必要な子ども。具体的には、診断名が付いている、定期的に療育・相談機関を利用している、園や学校から個別の指導計画等の引継ぎがある、支援員や加配の先生が配置されている子どもである。最終的に校(園)内委員会 で決定する。
- ・ 前年度からの支援対象児については、前担任が作成した計画(仮案)を軌道修正する。新たな対象児については、最初から完璧な計画ではなく、できるところから作成する。
- ・ 作成・活用については、保護者と建設的な対話を行い、合意形成を図る。高学年以上の子どもについては、本人の参画を促し、目標や手立てを共有する。
- ・ 評価は、保護者面談とセットで、年度半ばの中間評価と年度末評価を行って改善を図る。計画をデータ化して、校務支援システム等で管理している場合は、情報管理に配慮する。

子どもの願いを乗せたバスが道に迷い込んだら、コーディネーターは校(園)内外の人とつながりましょう。そして、周囲の人の力を生かして、子どもの笑顔を支えてください。子どもの数だけゴールはあります。笑顔でゴールした子どもは幸せになります。

～笑顔を届ける特別支援教育統括コーディネーターより～



とれたて直送便



back numberの歌「水平線」より

♪心は誰にも見えないのだから 見えるものよりも大事にするといい♪

子どものパニックやこだわり等の見える行動よりも、その行動が起きるきっかけになっている見えない要因(本人の特性、環境や状況)に注目し、問題行動を止める支援から、起さない支援を心掛けましょう。新学期がスタートしました。子どもの心が見えていますか。